

1. 皆さんこんにちは。私はマリッサ・アームストロングと申します。私はディアナ・ゴメズと申します。私たちのキャップストーンのタイトルは日本とアメリカの大学生が好むファッションスタイルの要因です。
2. これが概要です。
3. 私たちの研究質問は1、日米の大学生は個人的なスタイルを通してどのように自分のアイデンティティーを表現しているのか、2、トレンドセッターは消費者としての日米大学生にどのような影響を及ぼしているのかの以上です。
4. なぜ私たちがこの研究課題にしたかという、私たちが日本に留学していた時にアメリカ人のスタイルは個性的で、日本人は周りの人の服装と同じようにする傾向があることに気がつきました。そこでアメリカと日本のファッションにはどのような違いがあるか、そしてどのようなことに影響しているかについて理解したいと思ったからです。
5. これが研究背景です。
6. それでは、ここでアメリカのファッションの歴史について簡単にご説明致します。Pendergastによると初めにファッション雑誌が人々の服装に影響を及ぼし始めました。のちに大恐慌で人々の収入が減り、新しい服を作るための生地が制限されました。特に大切な変化は、若者がロックスターの服装をまねた時代です。それに加え、価格は安いが高格式の高い服が人気となり、ファッション・デザイナーは国際的に服を売り始めました。2000年代には60年代、70年代のレトロファッションが人気になりました。
7. アメリカでは1920年代に第一次世界大戦が終わり、服を節約する必要がなくなったので服がより手の込んだものになりました。しかし、1930年代に大恐慌

が起こったので人々の収入が減り、ファッションには無頓着になり同じ服を着ていました。つまり、1920年代の好景気に対して、1930年代は大恐慌の影響で金銭的な余裕がなく流行の服を買うことができませんでした。

8. 1950年代に人々は同じ服を着ることに飽き始め、再び高価な服を着始めました。戦争による衣服の制限が個性のないスタイルをもたらし、人々は自分の個性を表現するために新しいスタイルを作りました。
9. 次は新しいスタイルについてです。1970年代に同じようなスタイルに飽きた若者達によるスタイルレボリューションが始まりました。ロックバンドやアンダーグラウンドの文化は新しい流行を生み出し、フォロワーはそのスタイルを取り入れ、デザイナー達はその新しいスタイルを真似、大衆に売り出しました。
10. 次に日本のファッションの歴史について説明します。日本のファッションはヨーロッパの服に影響されました。そしてファッションに関する意識や意見が女性像の理想を変え始めました。経済成長の時代にはミニスカートやブルージンズやアイビールックなどのスタイルが登場し、バブル経済も始まりました。
11. さらにMondenによると1920年頃海外ファッションが日本の流行に影響を与え始め、日本の男女は異なる時期にヨーロッパのスタイルを取り入れ始めました。
12. Nickersonによると1940年代では女性達は自分のスタイルを選ぶことによって自分の世界を形作って行きました。その後に控えめなスタイルの流行に変わり、女性の服は益々自由になり、男性の服はプロフェッショナルかつ快適なものになりました。
13. 次は新しいスタイルです。1980年代に比類のない好景気のバブル経済が始まり1990年代にはそのバブルが崩壊したので失業率が高くなり、学生は余裕のある

所得がありませんでした。そのため景気停滞の理由としてファストファッションという動向が出てきました。ファストファッションというのは品質が高くても低価格な服です。

14. それではここで日本とアメリカのファッションに関する歴史についてお話しします。世界大恐慌の1930年代にはアメリカは服を作るお金さえにも困っていました。1970年代の経済成長の時期から10代の若者を中心にファッションがかわったのに対し、日本の場合は世界大恐慌の時代からファッションに関する理想の実現等（とう）様々な困難の時間の中でもファッションへの意識は強いことがわかります。

15. ファッションの流行の鍵となるトレンドセッターの条件をアメリカと日本と比べるとこのベン図からも分かるように日本とアメリカは対照的に違う点があることがわかります。いずれにせよ、ファッションの世界は常に変化しなければならず、新しい商品を出すためトレンドセッターは大事な役割を果たしています。

16. ではファッションのトレンドはどのように作られるかですが、Suzukiによると、ファッションには2つのトレンドモデルがあります。1つ目はディレクショナル・モデルで、左にあるチャートのようにトレンドが徐々に広まることをいいます。2つ目は様々なトレンドから1つだけ選ばれているシレクシャナル・モデルです。例えば、この5つのトレンドを表す星の中から、一つのトレンドを選ぶことをいいます。

17. これはいかにしてトレンドセッターがメディアを通して消費者に影響を及ぼすかを図に表したものです。日米ともファッション雑誌、店内でディスプレイされる

ファッション、友達、テレビが最も女性のスタイルに影響があると言われてい
ます。

18. それではアメリカではどのようにファッションに自分のアイデンティティーを表現するか、その相互関係について簡単にまとめるとこの3つがあげられます。唯物主義の高い人つまり服にお金をかける人は人生にあまり満足していない人で服にあまりお金をかけない人はカジュアルなスタイルを好みます。また3つ目に挙げられるのが社会的階級にとらわれず自由なスタイルを選ぶ人です。商品はその人の地位やアイデンティティーを表現する物です。
19. では日本はどうでしょうか。日本の場合はこの6つがあげられます。「自己主張の高い人」、「個人化願望の高い人」、「模倣性の高い人」、周りと同じスタイルをすることで自分のアイデンティティーを隠したい「少数派」、そして周りと同様なスタイルをしつつ誰よりも魅力的な自分や他人と違う魅力的な自分を追い求める「多数派」です。
20. ではここで私達が行った研究の結果について話します。まず研究方法ですが、参加者は日本の大学生121名、アメリカの大学生79名、合計200名で、日本語と英語のオンラインによるアンケート調査をしました。
21. 回答者の年齢は9割以上が十七歳から二十四歳でした。
22. この図は仕事をどのくらいしているかを表したもので日本の学生の8割が仕事をしているのに対しアメリカは5割の学生が仕事をしているということがわかりました。
23. それでは、ここで研究質問1の結果を説明します。
24. どのスタイルが最も自分の服の好みを表していると思いますかという質問に対し

ては、約半分のアメリカの学生が着心地のいい服を好むようですが、日本の学生はシンプルな服やイマドキな服を好むようです。

25.では、このワードクラウドを見ると両国好むファッションのスタイルの違いがよくわかります。

26.この表は様々な状況でどのようなファッションを選ぶかを国別に分けたものですが、ここにあげた状況では両国ともあまりファッションに違いはありません。ただ違いが出たのは友達と遊ぶ時アメリカは「リラックスした感じ」、日本は「フレンドリーな感じ」を選ぶことです。

27.次に、自分の好みの服のスタイルにいつ頃気づき始めましたかという質問に対しては、ほとんどのアメリカ人は中学校と高校で自分のスタイルに気づき、日本人は高校と大学で気づき始めたと答えました。日本人に比べて、アメリカ人はより早く自分のスタイルに気づくということが分かり、それに加え、小学校でスタイルに気づいた日本人は全くいませんでした。

28.服のために年間でどのくらいお金を使うかという質問に対して、大多数の日本人はアメリカ人よりお金を使うことを示しています。9万円から12万円を費やすアメリカ人は2%と非常に少ない一方で、日本人は21%とアメリカ人の約20%も上回っています。

29.あなたにとってブランドはどのくらい大切かという質問に対しては、日米の大学生ともにブランドはあまり大切ではないと答え、「とても大切」と答えた参加者は10%以下です。

30.次に、服を選ぶ時どの要因が最も大切かという質問に対しては、大多数のアメリカ人は「フィット」が最も大切だと答え、「デザイン・色」は大切だと答えた日

本人はアメリカ人の2倍以上でした。

31. ここで研究質問1をまとめたいと思います。アメリカの大学生に比べると、アルバイトをしている日本の大学生は多く、さらにファッションに費やすお金も多いようです。また日本人の流行のデザインの好みに比べ、アメリカ人は着心地のいい服を好み、実用性のある服を望んでいます。そして、ファッションアイデンティティーを形成するため、アメリカ人はブランドがあまり大切ではないと述べ、日本の大学生の約4割は大切だという結果になりました。日本の大学生は高校・大学時代に自分のスタイルが形成され、アメリカの学生の場合はもう少し早く、中学・高校時代に形成されるということが分かりました。
32. 次は研究質問2の結果を説明します。
33. 自分の国では、どのくらいの頻度で服の流行が変わると思うかという質問に対し、日米大学生ともに服の流行が変わるという意見が出ました。流行が「非常に・頻繁に変わる」と思う日本の大学生はほぼ85%で、アメリカの大学生は70%でした。
34. では、自分の服のスタイルに何が最も影響を与えていると思うかという質問に対して、アメリカの学生は何にも影響されていないという答えが一番多く、日本人は友達・家族、そして、メディアに影響を受けているということが分かりました。
35. そして、日本人はファッション雑誌・広告、SNS、ストリートファッションにも影響されています。
36. 自分のスタイルにメディアがどのくらい影響を与えていると思うかという質問に対して、日本人の6割はメディアに影響をされていることが分かり、アメリカ人

の6割は影響をされていないという対照的な答えが出ました。

- 37.次に、自分の服のスタイルは他人がどのくらい影響を与えているかという質問に対して、日本の学生はアメリカの学生より誰かの影響を受けているという認識があることが分かりました。そして、約55%の日本人は有名人が自分のスタイルに影響を与えていると答え、60%以上のアメリカ人は影響がないと述べています。
- 38.さて、これはアメリカと日本で最も人気のある女性のインスタグラマーです。
- 39.あなたが最もトレンドイヤーだと思う女性はだれかという質問に対して、日本人はアメリカで人気のある女性インスタグラマーを選び、アメリカ人は日本で人気のある女性インスタグラマーを選んだことが分かりました。
- 40.そして、これはアメリカと日本で最も人気のある男性のインスタグラマーです。
- 41.あなたが最もトレンドイヤーだと思う男性はだれかという質問に対して、日本人は日本で人気のある男性インスタグラマーを選び、アメリカ人はアメリカで人気のある男性インスタグラマーを選んだという結果が出ました。
- 42.トレンドセッターになるには何が最も必要だと思うかという質問に対して、日米の大学生ともにトレンドセッターの特徴はほぼ同じということが分かりました。
- 43.つまり、アメリカの大学生にとって独自のスタイルがあり親近感が持てる人はこちらの日本の女性とアメリカの男性、日本の大学生の場合はこちらのアメリカの女性と日本の男性です。
- 44.ここで研究質問2の結果をまとめたいと思います。アメリカと日本で好まれるトレンドセッターの特徴は同じですが、日本ではトレンドセッターがファッションに影響し、アメリカ人は誰にも影響されない傾向があるため、トレンドセッターの影響はあまりないと言えます。

45. それでは結論と考察です。日本とアメリカの学生はファッションを選ぶ基準が異なります。それにはその国の文化や、メディアの仕組みなどが関係しています。一般的に日本の学生はデザインを重視する傾向にあります。また、アルバイト等をしてそのお金をファッションにも使っています。しかし、アメリカの学生はアルバイト代は授業料、食費代、車の維持費などに使い、服に関してはあまりお金をかけず実用性のあるものを好みます。また、アメリカの学生は日本の学生よりブランド製品等にはお金をかけません。これは日本の社会での人間関係がアメリカとは異なり、人口密度が高く、周りとの協調を大事にするためでもあると思います。
46. また日本の場合には高校まで制服を着るため自分のスタイルが定まるのは大学に入ってからになります。このことから個人の好みを反映するスタイルはその国の文化を反映していることがわかります。日本ではテレビの視聴率が高く、アメリカよりも流行の影響を受けやすいと言え、日本ではメディアを通してのトレンドセッターの影響がファッションにすぐ反映する傾向にあります。アメリカの場合は、文化も見解も多様な社会であるため独自のスタイルを尊重すると言えます。
47. 最後に研究の限界点と将来の研究課題についてです。まず、女性の参加者が多かったため、次回は男性の参加者の人数を増やしたいと思います。そして、参加者の選んだトレンドセッターについてなぜそのトレンドセッターを選んだのか、またそのトレンドセッターを知っていたかどうかという点も追及したいと考えています。
48. こちらは参考文献です。
49. 最後に、ご指導くださった先生方と支えてくださった家族や友達に感謝をいたし

ます。

50. ご清聴ありがとうございました。